

2026年3月15日 ルカ22:24-34

説教題 「あなたがたの中で、給仕をする者のように」

【今日の説教から】

「異邦の王たちはその民の上に君臨し、また、権力をふるっている」

王とは強くあるべきというイメージがあります。君臨し、権力をふるう。上から支配し、厳しく命令し、押し付け、頭ごなしに指令し、決定づける独裁者、威圧的で横柄な人という形です。一番上に立ちたいということは得てして自分の意見が絶対であるべきという考えに結び付いています。

「かえって、あなたがたの中でいちばん偉い人はいちばん若い者のように、指導する人は仕える者のようになるべきである」

新顔で最も若輩者。一番偉い人と言ってしまうえば最終決定者であり、リーダーであり、責任者ですが、その人にはいちばんの若輩の新顔であれと言われていています。それで組織を束ねることが出来るのでしょうか。

「指導する人(リーダー)」との言葉があります。先ほどの異邦の王たちとの複数形ではなくて単数形で書かれています。たった一人のリーダー。ここでとっさに私たちはイエス様を思い浮かべるのです。弟子たちの間でイエス様に勝る指導者がいるのでしょうか。イエス様は今も、昔もたった一人のリーダーです。そのお方の場所を占めようとするのはサタンの試みです。私たちはいつもイエス様を思い、自分は最も年若いものだと思う。そして驚くことにイエス様も神様の前で人の前でそのように過ごされたのです。ここにリーダーの見本がおられます。

3月もあっという間に半ばになりました。一時雪もちらつきましたがすっかり春めいてまいりました。寒暖の差のある日々、どうぞご自愛ください。

さて私たちは近頃読み進めておりましたガラテヤ書を離れ、受難に向かうイエス様のご様子を示す聖書の箇所に入りました。

マタイ福音書によれば、イエス様は3度ご自身の死と復活を予告しておられ、そのあとにヤコブとヨハネの母が「わたしのこのふたりのむすこが、あなたの御国で、ひとりあなたの右に、ひとは左にすわれるように、お言葉をください」。と語りだし、他の10人の弟子たちは「これを聞いて、このふたりの兄弟たちのことで憤慨した」とあります。

しかし弟子たちはイエス様の死の意味も、復活の意味も良く分かっていなかったと考えられます。

マタイ 16:22 すると、ペテロはイエスをわきへ引き寄せて、いさめはじめ、「主よ、とんで

もないことです。そんなことがあるはずはございません」と言った。

16:23 イエスは振り向いて、ペテロに言われた、「サタンよ、引きさがれ。わたしの邪魔をする者だ。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている」。

16:24 それからイエスは弟子たちに言われた、「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい。

16:25 自分の命を救おうと思う者はそれを失い、わたしのために自分の命を失う者は、それを見いだすであろう。

16:26 たとい人が全世界をもうけても、自分の命を損したら、なんの得になろうか。また、人はどんな代価を払って、その命を買いもどすことができようか。

ルカ 24:9 墓から帰って、これらいっさいのことを、十一弟子や、その他みんなの人に報告した。

24:10 この女たちというのは、マグダラのマリヤ、ヨハンナ、およびヤコブの母マリヤであった。彼女たちと一緒にいたほかの女たちも、このことを使徒たちに話した。

24:11 ところが、使徒たちには、それが愚かな話のように思われて、それを信じなかった。

マタイ 28:16 さて、十一人の弟子たちはガリラヤに行って、イエスが彼らに行くように命じられた山に登った。

28:17 そして、イエスに会って拝した。しかし、疑う者もいた。

イエス様の十字架の死による主の救いの意味も、捧げた先の勝利の復活も、神様の深い深いご経綸には人は驚くほど鈍感です。そして3度の予告もむなしく人はおろおろし、うなだれ、疑い、惑うのです。

マタイ 9:19 イエスは答えて言われた、「ああ、なんという不信仰な時代であろう。いつまで、わたしはあなたがたと一緒におられようか。いつまで、あなたがたに我慢ができようか。その子をわたしの所に連れてきなさい」。

9:23 イエスは彼に言われた、「もしできれば、と言うのか。信ずる者には、どんな事でもできる」。

9:24 その子の父親はすぐ叫んで言った、「信じます。不信仰なわたしを、お助けください」。

ルカ 22:42 「父よ、みこころならば、どうぞ、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの思いではなく、みこころが成るようにしてください」。

22:43 そのとき、御使が天からあらわれてイエスを力づけた。

22:44 イエスは苦しみもだえて、ますます切に祈られた。そして、その汗が血のしたたり

のように地に落ちた。

22:45 祈を終えて立ちあがり、弟子たちのところへ行かれると、彼らが悲しみのはて寝入っているのをごらんになって

22:46 言われた、「なぜ眠っているのか。誘惑に陥らないように、起きて祈っていなさい」。

マルコ 14:33 そしてペテロ、ヤコブ、ヨハネと一緒に連れて行かれたが、恐れおののき、また悩みはじめて、彼らに言われた、

14:34 「わたしは悲しみのあまり死ぬほどである。ここに待っていて、目をさましていなさい」。

14:35 そして少し進んで行き、地にひれ伏し、もしできることなら、この時を過ぎ去らせてくださるようにと祈りつづけ、そして言われた、

14:36 「アバ、父よ、あなたには、できないことはありません。どうか、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの思いではなく、みこころのままになさってください」。

14:37 それから、きてごらんになると、弟子たちが眠っていたので、ペテロに言われた、「シモンよ、眠っているのか、ひと時も目をさましていることができなかったのか。」

14:38 誘惑に陥らないように、目をさまして祈っていなさい。心は熱しているが、肉体が弱いのである」。

人は弱く、鈍感で、自分の視野の中にあることばかりに心を奪われ、師である主のお言葉をすぐに忘れてしまう者です。しかし主の死と復活を良く理解しないながらも、ちゃっかりと抜け目なく跡目争いはするのです。何と人間は打算的なのでしょうか。

22:24 それから、自分たちの中でだれがいちばん偉いだろうかと言って、争論が彼らの間に、起った。

だれが一番偉いか。一番偉いというのはトップの座に就く、権力者になるということです。偉い、尊敬される一団にいればよいというのではなくて、上り詰めて一番偉くなければならぬ、そして自分の意のままを行う。これもまたいかにも人間らしい考え方です。そうして私たちは神様までも心の中から排斥して自分が一番偉くありたいと願うのです。

22:25 そこでイエスが言われた、「異邦の王たちはその民の上に君臨し、また、権力をふるっている者たちは恩人と呼ばれる。

まさしく「異邦の王たちはその民の上に君臨し、また、権力をふるっている」と言うように、

「一番偉い」ことを望む弟子たちもそれに似通っていました。

「君臨し、権力をふるう」とは、上から支配し、厳しく命令し、押し付け、頭ごなしに指令し、決定づける独裁者、威圧的で横柄な人」そういう意味です。それが異邦の王たちです。一番偉い。他よりも圧倒的な力を持つ唯一の者、ナンバーワンでトップの座にある者こそ、このような支配力と影響力を持つことが出来ます。だから2番手ではなくてトップにいないといけない。自分の意のままにするにはトップの座にいないといけないのです。

22:26 しかし、あなたがたは、そうであってはならない。かえって、あなたがたの中でいちばん偉い人はいちばん若い者のように、指導する人は仕える者のようになるべきである。

「しかし、あなたがたは、そうであってはならない。」

イエス様の、弟子たちの考えの全てを見透かしておられるお言葉です。

「上から支配し、厳しく命令し、押し付け、頭ごなしに指令し、決定づける独裁者、威圧的で横柄な人」、異邦の王たちを見習うのではない、決してそうではない。あなた方の中では。私が血をもって贖う教会のあなた方の中では。愛する私の弟子のあなた方の中では、そうであってはならない。

「かえって、あなたがたの中でいちばん偉い人はいちばん若い者のように、指導する人は仕える者のようになるべきである。」

いちばん偉い人、最も優れた人は一番年若い者、年下、若輩、新米、新顔のように、そしてしもべとして仕えるリーダーであり支配者でありなさい。

先に異邦の王たちは「上から支配し、厳しく命令し、押し付け、頭ごなしに指令し、決定づける独裁者、威圧的で横柄な人」たちであるとありました。王という言葉は複数形で書かれています。国々の王たちは押しなべて皆そういう傲慢で不遜な王たちであり、弟子たちもその一団に仲間入りしてほしくないとのイエス様のお言葉がここにはあります。しかしここにあります「いちばん若い者のように、指導する人は仕える者になるべき」という指導する者とはただ一人の単数形で書かれています。

傲慢な王たちのモデルに倣わずに、ただ一人、「いちばん若い者のように、指導する人は仕える者になるべき」。そう、それは紛れもなく私たちの主、イエス様のお姿です。

2コリント 8:7 さて、あなたがたがあらゆる事がらについて富んでいるように、すなわち、信仰にも言葉にも知識にも、あらゆる熱情にも、また、あなたがたに対するわたしたちの愛にも富んでいるように、この恵みのわざにも富んでほしい。

8:8 こう言っても、わたしは命令するのではない。ただ、他の人たちの熱情によって、あなたがたの愛の純真さをためそうとするのである。

8:9 あなたがたは、わたしたちの主イエス・キリストの恵みを知っている。すなわち、主は富んでおられたのに、あなたがたのために貧しくなられた。それは、あなたがたが、彼の貧しさによって富む者になるためである。

1 ペテロ 2:16 自由人にふさわしく行動しなさい。ただし、自由をば悪を行う口実として用いず、神の僕にふさわしく行動しなさい。

2:17 すべての人をうやまい、兄弟たちを愛し、神をおそれ、王を尊びなさい。

2:18 僕たる者よ。心からのおそれをもって、主人に仕えなさい。善良で寛容な主人だけにでなく、気むずかしい主人にも、そうしなさい。

2:19 もしだれかが、不当な苦しみを受けても、神を仰いでその苦痛を耐え忍ぶなら、それはよみせられることである。

2:20 悪いことをして打ちたたかれ、それを忍んだとしても、なんの手柄になるのか。しかし善を行って苦しみを受け、しかもそれを耐え忍んでいるとすれば、これこそ神によみせられることである。

2:21 あなたがたは、実に、そうするようにと召されたのである。キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、御足の跡を踏み従うようにと、模範を残されたのである。

2:22 キリストは罪を犯さず、その口には偽りがなかった。

2:23 ののしられても、ののしりかえさず、苦しめられても、おびやかすことをせず、正しいさばきをするかたに、いっさいをゆだねておられた。

2:24 さらに、わたしたちが罪に死に、義に生きるために、十字架にかかって、わたしたちの罪をご自分の身に負われた。その傷によって、あなたがたは、いやされたのである。

2:25 あなたがたは、羊のようにさ迷っていたが、今は、たましいの牧者であり監督であるかたのもとに、たち帰ったのである。

イザヤ 53:1 だれがわれわれの聞いたことを／信じ得たか。主の腕は、だれにあらわれたか。

53:2 彼は主の前に若木のように、かわいた土から出る根のように育った。彼にはわれわれの見るべき姿がなく、威厳もなく、われわれの慕うべき美しさもない。

53:3 彼は侮られて人に捨てられ、悲しみの人で、病を知っていた。また顔をおおって忌みきらわれる者のように、彼は侮られた。われわれも彼を尊ばなかった。

53:4 まことに彼はわれわれの病を負い、われわれの悲しみをになった。しかるに、われわれは思った、彼は打たれ、神にたたかれ、苦しめられたのだと。

53:5 しかし彼はわれわれのとがのために傷つけられ、われわれの不義のために砕かれたのだ。彼はみずから懲らしめをうけて、われわれに平安を与え、その打たれた傷によって、われわれはいやされたのだ。

53:6 われわれはみな羊のように迷って、おのおの自分の道に向かって行った。主はわれわれすべての者の不義を、彼の上におかれた。

53:7 彼はしえたげられ、苦しめられたけれども、口を開かなかった。ほふり場にひかれて行く小羊のように、また毛を切る者の前に黙っている羊のように、口を開かなかった。

53:8 彼は暴虐なさばきによって取り去られた。その代の人のうち、だれが思ったであろうか、彼はわが民のとがのために打たれて、生けるものの地から断たれたのだと。

53:9 彼は暴虐を行わず、その口には偽りがなかったけれども、その墓は悪しき者と共に設けられ、その塚は悪をなす者と共にあった。

53:10 しかも彼を砕くことは主のみ旨であり、主は彼を悩まされた。彼が自分を、とがの供え物となすとき、その子孫を見ることができ、その命をながくすることができる。かつ主のみ旨が彼の手によって栄える。

53:11 彼は自分の魂の苦しみにより光を見て満足する。義なるわがしもべはその知識によって、多くの人を義とし、また彼らの不義を負う。

53:12 それゆえ、わたしは彼に大いなる者と共に／物を分かち取らせる。彼は強い者と共に獲物を分かち取る。これは彼が死にいたるまで、自分の魂をそそぎだし、とがある者と共に数えられたからである。しかも彼は多くの人々の罪を負い、とがある者のためにとりなしをした。

ピリピ 2:1 そこで、あなたがたに、キリストによる勧め、愛の励まし、御霊の交わり、熱愛とあわれみとが、いくらかでもあるなら、

2:2 どうか同じ思いとなり、同じ愛の心を持ち、心を合わせ、一つ思いになって、わたしの喜びを満たしてほしい。

2:3 何事も党派心や虚栄からするのでなく、へりくだった心をもって互に人を自分よりすぐれた者としなさい。

2:4 おのおの、自分のことばかりでなく、他人のことも考えなさい。

2:5 キリスト・イエスにあっていただいているのと同じ思いを、あなたがたの間でも互に生かしなさい。

2:6 キリストは、神のかたちであられたが、神と等しくあることを固守すべき事とは思わず、

2:7 かえって、おのれをむなしうして僕のかたちをとり、人間の姿になられた。その有様は人と異ならず、

2:8 おのれを低くして、死に至るまで、しかも十字架の死に至るまで従順であられた。

2:9 それゆえに、神は彼を高く引き上げ、すべての名にまさる名を彼に賜わった。

2:10 それは、イエスの御名によって、天上のもの、地上のもの、地下のものなど、あらゆるものがひざをかがめ、

2:11 また、あらゆる舌が、「イエス・キリストは主である」と告白して、栄光を父なる神

に帰するためである。

2:12 わたしの愛する者たちよ。そういうわけだから、あなたがたがいつも従順であったように、わたしが一緒にいる時だけでなく、いない今は、いっそう従順でいて、恐れおののいて自分の救の達成に努めなさい。

2:13 あなたがたのうちに働きかけて、その願いを起させ、かつ実現に至らせるのは神であって、それは神のよしとされる場所だからである。

主イエス様は富んでおられたのに、「神のかたちであられたが、神と等しくあることを固守すべき事とは思わず、かえって、おのれをむなしうして僕のかたちをとり、人間の姿になられた。その有様は人と異ならず、おのれを低くして、死に至るまで、しかも十字架の死に至るまで従順であられた」のです。ここに愛があるのです。主がそこまでも身をやつして、赤子になりて生まれる。最も年を吸い、弱いものとして生まれ、その神の力を自分のために一つとして用いず、どんなに空腹でも自分のためには石をパンにはせずに、神殿から飛び降りて天使に自分を支えさせるようなこともなさらず神様の守りを信じ切って主は進まれました。そして朝から晩まで奉仕をなさってその決血は十字架にご自分の血潮も命もすべてを与え尽くしてくださったのです。それは私たちの悲運を、病を、罪を、呪いを、全て肩代わりしてくださった結果でした。イエス様が海綿のようにスポンジのようにそのすべてを飲み込んでくださったのです。

1 ヨハネ 4:7 愛する者たちよ。わたしたちは互に愛し合おうではないか。愛は、神から出たものなのである。すべて愛する者は、神から生れた者であって、神を知っている。

4:8 愛さない者は、神を知らない。神は愛である。

4:9 神はそのひとり子を世につかわし、彼によってわたしたちを生きるようにして下さった。それによって、わたしたちに対する神の愛が明らかにされたのである。

4:10 わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して下さって、わたしたちの罪のためにあがないの供え物として、御子をおつかわしになった。ここに愛がある。

4:11 愛する者たちよ。神がこのようにわたしたちを愛して下さったのであるから、わたしたちも互に愛し合うべきである。

4:12 神を見た者は、まだひとりもいない。もしわたしたちが互に愛し合うなら、神はわたしたちのうちにいまし、神の愛がわたしたちのうちに全うされるのである。

4:13 神が御霊をわたしたちに賜ったことによって、わたしたちが神におり、神がわたしたちにいますことを知る。

4:14 わたしたちは、父が御子を世の救主としておつかわしになったのを見て、そのあかしをするのである。

4:15 もし人が、イエスを神の子と告白すれば、神はその人のうちにいまし、その人は神のうちにいるのである。

4:16 わたしたちは、神がわたしたちに対して持つておられる愛を知り、かつ信じている。神は愛である。愛のうちにいる者は、神におり、神も彼にいます。

4:17 わたしたちもこの世にあって彼のように生きているので、さばきの日に確信を持って立つことができる。そのことによって、愛がわたしたちに全うされているのである。

4:18 愛には恐れがない。完全な愛は恐れをとり除く。恐れには懲らしめが伴い、かつ恐れる者には、愛が全うされていないからである。

4:19 わたしたちが愛し合うのは、神がまずわたしたちを愛して下さったからである。

4:20 「神を愛している」と言いながら兄弟を憎む者は、偽り者である。現に見ている兄弟を愛さない者は、目に見えない神を愛することはできない。

4:21 神を愛する者は、兄弟をも愛すべきである。この戒めを、わたしたちは神から授かっている。

「かえって、あなたがたの中でいちばん偉い人はいちばん若い者のように、指導する人は仕える者のようになるべきである。」

イエス様はただお一人、一番偉い人です。間違いなくイエス様が一番偉い方です。この造られた世界のすべての中で最も尊く素晴らしく立派なお方です。

立派で力と権威に満ち、高貴な方なのに、「民の上に君臨し、また、権力をふる」うことはありませんでした。主は最も年若いものとなり、その順番は二の次三の次になられ、いつも下から支え上げる仕える者、僕となってくださいました。ここに私たちのモデルがあります。

22:27 食卓につく人と給仕する者と、どちらが偉いのか。食卓につく人の方ではないか。しかし、わたしはあなたがたの中で、給仕をする者のようにしている。

イエス様は唯一のご存在です。この方をおいてほかにこのような立派な方はどこを探してもおられません。世界中を探しても決して見つからないのです。しかしイエス様はそういうお方なのです。イエス様は全世界のすべての歴史の中で最も偉い人なのです。そしてそのお方がこのようにふるまってくくださったのです。

22:28 あなたがたは、わたしの試練のあいだ、わたしと一緒に最後まで忍んでくれた人たちである。

イエス様はずっと試練をお受けになっておられました。24時間365日、敵の手がイエス様に及び、どうにかしてその尊いお働きを失敗させようとして、荒野の誘惑のようなことを

常に経験しておられたのです。ゲッセマネの祈りに至るまで、そして十字架の上に命を落とすその時まで、イエス様はずっと試練を受けておられました。父なる神様からの、地上での生活のテスト、さながら神様神学校のテストを受け続けておられたのです。

マタイ 3:16 イエスはバプテスマを受けるとすぐ、水から上がられた。すると、見よ、天が開け、神の御霊がはどのように自分の上を下ってくるのを、ごらんになった。

3:17 また天から声があった、「これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である」。

マルコ 9:7 すると、雲がわき起って彼らをおおった。そして、その雲の中から声があった、「これはわたしの愛する子である。これに聞け」。

マタイ 11:25 そのときイエスは声をあげて言われた、「天地の主なる父よ。あなたをほめたたえます。これらの事を知恵のある者や賢い者に隠して、幼な子にあらわしてくださいました。

11:26 父よ、これはまことにみこころにかなった事でした。

11:27 すべての事は父からわたしに任せられています。そして、子を知る者は父のほかにはなく、父を知る者は、子と、父をあらわそうとして子を選んだ者とのほかに、だれもありません。

11:28 すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。

11:29 わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。

11:30 わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである」。

22:28 あなたがたは、わたしの試練のあいだ、わたしと一緒に最後まで忍んでくれた人たちである。

本当にそうでしょうか。弟子たちは本当にイエス様と、「わたしと一緒に最後まで忍んでくれた人たち」なのでしょうか。疑問です。しかし主はそうおっしゃいます。主はそう認めてくださいます。過分の恵みです。律法を守ってそして認められるという世界とは全く異なります。ここにはただあわれみと恵みがあるのみです。これをやったから、これを失敗したからあなたにはペナルティとの減点法の考え方ではないのです。主は私たちの小さな小さな良いわざを、良い心を、顕微鏡を使って大きく大きく引き伸ばしてほめてくださるのです。子供が書いた整わない絵であってもすごく上手だね、最高だとほめてくださるように、主は

褒めて励まして、強めてくださるのです。ですから私たちも、困難な状況にあって、目の前の苦しみが大きく大きく迫る時にも、現実打ちのめされて希望を失い、主が遠くに形粒のように小さく思われても、打算主義の嵐の中、誰もが人を蹴落として自分が上に立たなければ意味がない、これは戦争だと言っているときにも、その小さくしてしまった神様をこそ大きく大きく、高性能の天体望遠鏡を用いて、信仰の心を用いて目の前に大きく大きく拡大して(マリアの賛歌、マグニフィカートのように)、主をいつもほめたたえようではありませんか。

22:29 それで、わたしの父が国の支配をわたしにゆだねてくださったように、わたしもそれをあなたがたにゆだね、

22:30 わたしの国で食卓について飲み食いをさせ、また位に座してイスラエルの十二の部族をさばかせるであろう。

天での楽しみが待っています。そして主の弟子たちには天でも大きな役割もが備えられているようです。

22:31 シモン、シモン、見よ、サタンはあなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って許された。

22:32 しかし、わたしはあなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈った。それで、あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい」。

サタンです。サタンは傲慢極まりない存在です。サタンこそが「君臨し、権力をふるう存在、上から支配し、厳しく命令し、押し付け、頭ごなしに指令し、決定づける独裁者、威圧的で横柄な」ものの象徴であり、権化です。サタンは自らを神にも勝るものであると標榜し、人に神の教えよりも私の声に聴き従えと蛇のように近寄り、神様の元から人をはぎ取り奪い取ろうとする盗人なのです。その口には嘘が満ちています。

ヨハネ 8:31 イエスは自分を信じたユダヤ人たちに言われた、「もしわたしの言葉のうちにとどまっておるなら、あなたがたは、ほんとうにわたしの弟子なのである。

8:32 また真理を知るであろう。そして真理は、あなたがたに自由を得させるであろう」。

8:33 そこで、彼らはイエスに言った、「わたしたちはアブラハムの子孫であって、人の奴隷になったことなどは、一度もない。どうして、あなたがたに自由を得させるであろうと、言われるのか」。

8:34 イエスは彼らに答えられた、「よくよくあなたがたに言うておく。すべて罪を犯す者は罪の奴隷である。

8:35 そして、奴隷はいつまでも家にいる者ではない。しかし、子はいつまでもいる。

8:36 だから、もし子があなたがたに自由を得させるならば、あなたがたは、ほんとうに自由な者となるのである。

8:37 わたしは、あなたがたがアブラハムの子孫であることを知っている。それなのに、あなたがたはわたしを殺そうとしている。わたしの言葉が、あなたがたのうちに根をおろしていないからである。

8:38 わたしはわたしの父のもとで見たことを語っているが、あなたがたは自分の父から聞いたことを行っている」。

8:39 彼らはイエスに答えて言った、「わたしたちの父はアブラハムである」。イエスは彼らに言われた、「もしアブラハムの子であるなら、アブラハムのわざをするがよい。

8:40 ところが今、神から聞いた真理をあなたがたに語ってきたこのわたしを、殺そうとしている。そんなことをアブラハムはしなかった。

8:41 あなたがたは、あなたがたの父のわざを行っているのである」。彼らは言った、「わたしたちは、不品行の結果うまれた者ではない。わたしたちにはひとりの父がある。それは神である」。

8:42 イエスは彼らに言われた、「神があなたがたの父であるならば、あなたがたはわたしを愛するはずである。わたしは神から出た者、また神からきている者であるからだ。わたしは自分からきたのではなく、神からつかわされたのである。

8:43 どうしてあなたがたは、わたしの話すことがわからないのか。あなたがたが、わたしの言葉を悟ることができないからである。

8:44 あなたがたは自分の父、すなわち、悪魔から出てきた者であって、その父の欲望どおりを行おうと思っている。彼は初めから、人殺しであって、真理に立つ者ではない。彼のうちには真理がないからである。彼が偽りを言うとき、いつも自分の本音をはいているのである。彼は偽り者であり、偽りの父であるからだ。

8:45 しかし、わたしが真理を語っているので、あなたがたはわたしを信じようとしなさい。

このサタンは人をふるいにかけて、人は弱々しく、身の入らないもみ殻のように軽く吹き飛ばんでしまいます。サタンはそれ見たことかと大喜びします。それはあたかも律法がサタンの便利な道具のようになって私たちを失格者として認定するためのサタンの手段のように見えさせます。

22:32 しかし、わたしはあなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈った。それで、あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい」。

「しかし」です。イエス様はそんな弟子と呼ばれるに甲斐なき、失格者である私たちのために常に祈り続けておられるのです。私たちの信仰が今日まで無くならないのは、ただ主の憐

れみによります。私たちが立派にそれを守り行ってきたからではありません。

22:33 シモンが言った、「主よ、わたしは獄にでも、また死に至るまでも、あなたとご一緒に行く覚悟です」。

22:34 するとイエスが言われた、「ペテロよ、あなたに言うておく。きょう、鶏が泣くまでに、あなたは三度わたしを知らないと言うだろう」。

人の熱意もまたむなし。義人はいない、一人もいないのです。すべての人が失敗し、破綻し、罪に墮してしまっただけです。誰一人として主の側に立つ人はいません。しかし主はその試練を残らず完遂なさいました。

マルコ 14:38 誘惑に陥らないように、目をさまして祈っていなさい。心は熱しているが、肉体が弱いのである」。との御言葉の通りです。

主はおいたわしや…、たった一人で。孤軍奮闘、振り向いたら弟子たちはいない。サタンの高笑い。イエス様が弟子たちに教えてこられたことは何だったのでしょうか。それらの苦労は全てむなく水泡に帰してしまうのでしょうか。いいえ、そうではありません。

人の罪の心の大嵐の中、今誰が偉いかというような議論によって主の尊い弟子たちの間でさえ、世の中と全く変わらないような子苦肉の争いが起こっている。サタンはそれ見たことかと大笑い。

22:32 しかし、わたしはあなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈った。それで、あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい」。

あなたは立ち上がる。そして兄弟を力づけるのだ。自分が一番、あなたは私の下と、人を打倒して自分に隷属させることはもう十分。私を見なさい。そして私の祈りを知りなさい。あなたは私に守られていた。しかし私は見えなくなる。後ろ盾もなく、確信もなく、散らされた羊のようになる。

マルコ 14:22 一同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、祝福してこれをさき、弟子たちに与えて言われた、「取れ、これはわたしのからだである」。

14:23 また杯を取り、感謝して彼らに与えられると、一同はその杯から飲んだ。

14:24 イエスはまた言われた、「これは、多くの人のために流すわたしの契約の血である。

14:25 あなたがたによく言うておく。神の国で新しく飲むその日までは、わたしは決して

二度と、ぶどうの実から造ったものを飲むことをしない」。

14:26 彼らは、さんびを歌った後、オリブ山へ出かけて行った。

14:27 そのとき、イエスは弟子たちに言われた、「あなたがたは皆、わたしにつまずくであろう。『わたしは羊飼いを打つ。そして、羊は散らされるであろう』と書いてあるからである。

14:28 しかしわたしは、よみがえってから、あなたがたより先にガリラヤへ行くであろう」。

私は死ぬが、復活してあなたがたより先にガリラヤへ行き、あなた方に出会う。そしてあなた方を励ます。「見よ、わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいるのである」(マタイ 28:20)。

主のご愛とお守りは、どれほどのものなのでしょう。私たちはそんなイエス様だけを見ていれば、それでいいのです。イエス様が一番偉いのです。私たちではありません。私たちが偉くなりたいのであれば、私たちはイエス様に近づくのです。低く低くなり仕える者になる。赦し、仕え、祈り、励ます。そして愛する。これが最も偉い人の生き方なのです。

ヨハネ 15:13 人がその友のために自分の命を捨てること、これよりも大きな愛はない。

15:14 あなたがたにわたしが命じることを行うならば、あなたがたはわたしの友である。

15:15 わたしはもう、あなたがたを僕とは呼ばない。僕は主人のしていることを知らないからである。わたしはあなたがたを友と呼んだ。わたしの父から聞いたことを皆、あなたがたに知らせたからである。

15:16 あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだのである。そして、あなたがたを立てた。それは、あなたがたが行って実をむすび、その実がいつまでも残るためであり、また、あなたがたがわたしの名によって父に求めるものはなんでも、父が与えて下さるためである。

15:17 これらのことを命じるのは、あなたがたが互に愛し合うためである。

「忘れないで」 『友よ歌おう 51番』 山内修一 作詞作曲

1. 忘れないで いつもイエス様は
君のことを 見つめている
だから いつも 絶やさないで
胸の中の ほほえみを
2. だけど いつか 激しい嵐が
君のほほえみ 吹き消すでしょう
だから いつも 離さないで
胸の中の みことばを

3. 忘れないで 悲しみの夜は
希望のあしたに 変わることを
だから すぐに 取り戻して
いつもの君の ほほえみを

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。イエス様が天地の創造主である神様と等しい方であられるにもかかわらず、最も年若い赤子として生まれ、新顔のように誰からも軽んじられて、神と人にとに仕える者として十字架の死にまで従われたことを改めて驚きと共に思い返します。あなたこそが唯一のリーダーです。あらゆる苦しめる方々を神様の救いと平安の中にお導き下さい。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。私たちをお用い下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン